

てんかん治療の専門機関

広島大病院 県内拠点に

広島大病院（広島市南区）は20日、てんかんを専門的に治療する医療機関として、関係機関との連携・調整を進める広島県の診療拠点機関に選ばれた。厚生労働省が進める地域診療連携事業の一環。同病院の「てんかんセンター」を中心に県内の診療ネットワークづくりを目指す。

12月にも医師や県、患者支援団体のメンバーなどでつくる医療連携協議会を同センターに設置する。県医師会と連携し、てんかん治療を担う医師の育成講座の開催▽患者がより高度な治療が必要な場合、専門医を紹介する体制づくり▽市民への啓発活動などを進める。

てんかんを担当する診療科は脳神経外科や神経内科、小児科など多岐にわたる。同病院は昨年1月、てんかん治療の窓口を一本化する同センターを設置。各診療科の医師たちが連携し、症状や年齢に応じた診断・治療ができる体制を設けた。同センターの飯田幸治センター長は「症状にあった治療を受けられず、長年苦しんでいる患者もいる。関係機関と連携し、患者に合った診療体制を確立したい」と話している。

（加茂孝之）